

## IgG4-related brain pseudotumor mimicking CNS lymphoma: A case report

著者 : Rie Oshima, Ryotaro Ikeguchi, Sho Wako, Takafumi Mizuno, Kayoko Abe, Masayuki Nitta, Yoshihiro Muragaki, Takakazu Kawamata, Kenta Masui, Tomoko Yamamoto, Noriyuki Shibata, Yuko Shimizu, Kazuo Kitagawa

掲載雑誌 : Neuropathology (in press)

32 歳時に腫瘍様脳病変を呈し脳生検施行。病理では、非特異的な炎症所見であった。少量のステロイドで軽快し、以後安定していた。39 歳時に頭痛、発熱、倦怠感を自覚。頭部 MRI で、左側頭葉に脳浮腫を伴う腫瘍様病変を認めた (図 1)。病変は FLAIR で高信号を呈し、Gd 増強効果を伴っていた。脳腫瘍が疑われたためメチオニン PET を行ったところ、メチオニンの高集積を認めた (図 2)。髄液検査では、可溶性 IL-2 受容体と IL-10 が上昇しており、中枢神経悪性リンパ腫が疑われた。脳部分切除を施行したところ、病理では著明な形質細胞浸潤を認め、その多くが IgG4 陽性であった (図 3)。花筵様の線維化および部分的な閉塞性静脈炎の所見も認められた。これら病理所見より IgG4 関連疾患の一亜型である IgG4 関連脳偽腫瘍と診断した。

これまでに、IgG4 関連脳偽腫瘍において詳細な髄液検査、メチオニン PET の解析を行った報告はない。IgG4 関連疾患では、本例のように脳腫瘍様の病変を呈することがあり、また中枢神経悪性リンパ腫に類似した各種検査所見を呈することがあるため、腫瘍様脳病変の鑑別を行う際には念頭に置く必要がある。

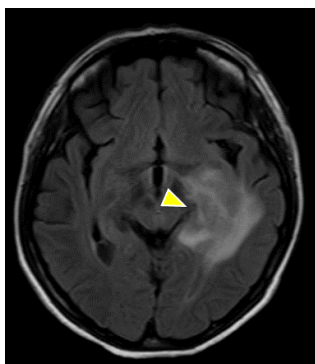


図 1: 頭部 MRI (FLAIR)  
側頭葉に FLAIR で高信号を示す病変が認められる (矢頭)

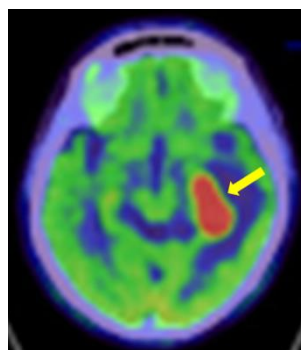


図 2: メチオニン PET  
脳病変にメチオニンの高集積が認められる (赤)

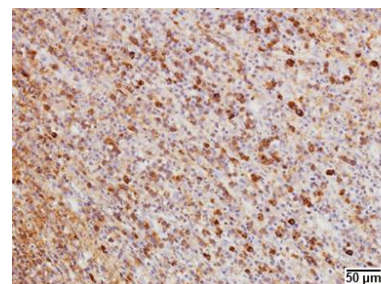


図 3: 脳病理 IgG4 免疫染色  
著明な形質細胞の浸潤が認められ、その多くが IgG4 陽性である